

3/19『キリストを着た神のこども』（ガラテヤ3：23～29）

長谷川 望 牧師

*パウロは「律法」をキリストへ導くための「養育係」に似ているといった。（ガラテヤ3：23～25参照）当時の養育係は主に奴隷の役目で、主人の子どもの面倒を見ることが目的であった。こどもが成人してしまうと「養育係」は必要でなくなる。しかし、それまでは必要な大切な役割をもっていた。キリストが来られてはっきりと信仰によって救われる時代が来ると「律法」の役割は終わったというのである。

*イエス・キリストを信じて救われると「クリスチャン」となるが、クリスチャンとはどのような者なのか。

①神のこどもになる。「**あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神のこどもです。**」（ガラテヤ3：26）私たちが神のこどもになるとは、神の一方的な恵みによって神の子の身分が与えられる。そうすれば、私たちと神との関係は大変親しくなり、「お父さん」と呼べば「わが子よ」と答えてくださる。神との交わりが回復するのである。

②キリストを着ている。「**バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。**」（3：27）私たちはキリストとがっちりつながっている。私たちははたかく、自分の弱さや小ささや罪にばかり目が行きがちである。しかし、本当は着せてもらえないはずのキリストを着せてくださっている。だからキリストが歩まれるように歩むことができるのである。大きな恵みである。

③平等の交わりをすることができる。「**ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。**」（3：28）当時の社会を考えると、このことは驚くべきことであった。クリスチャンはどんなことでもお互いに差別されない平等の交わりをすることができる。イエス・キリストご自身が身をもって明らかにされた。お互いにこのことを理解し、実行し、励まし合い、喜び合うようにされている。

④神の国の相続人となる。「**もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。**」（3：29）

*キリストを信じてバプテスマを受けたクリスチャンは、「キリストを着た神のこども」として新しくされ、神の大きな恵みの中に生かされている。